

## 再造林に欠かせないシカ害防除技術の開発

林業研究部

### 1. 研究の背景

植栽地のシカ被害は依然として多く発生しており、克服すべき課題である。ツリーシェルター等の単木防除は、疎植造林の普及や下刈低減の効果が期待できるなどの点から再評価する動きがある。そこで、ツリーシェルターを使用したシカ被害防除について整理、検討を行った。

### 2. 研究成果の内容・普及のポイント

12種類のツリーシェルターを当林業研究部内に設置した(表-1)。

#### 【試験のスケジュール】

- ・ 植栽時(平成30年9月)、1年後(令和元年9月)、2年後(令和2年9月)に成長量(樹高)を調査した。
- ・ 苗木の枯損状況及びシェルターの破損状況や傾きを調査した。

#### 【結果】

樹高は、対照区よりツリーシェルターの方が上回り、ツリーシェルター別で有意な差は見られなかった。また、ツリーシェルター内の苗木の枯損は1本のみで、ツリーシェルターの破損や傾きは見られなかった。

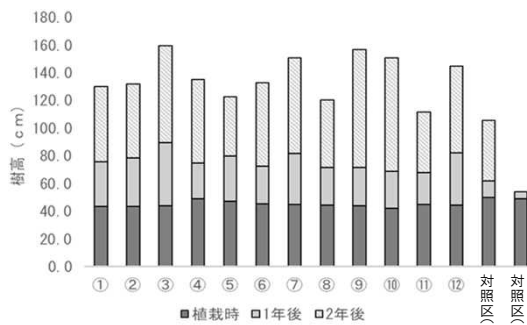


図-1 成長量の比較(樹高)

対照区(シカネット)

表-1 ツリーシェルター一覧

メーカー	本体形状	材質	高さ	筒の太さ	支柱数
A社	筒型・円形	① ポリプロピレン	1.4m	φ10cm	2本
		② バイオマス			
		③ グラスファイバー			
		④ ポリプロピレン	1.7m		
		⑤ バイオマス			
		⑥ グラスファイバー			
B社	筒型・六角形	⑦ ポリプロピレン	1.4m	対角12cm	1本
		⑧ ポリプロピレン		対角15cm	
C社	ネット型(ミカン袋)	⑨ ポリエチレン	1.4m	φ約18cm	1本
		⑩ グラスファイバー		φ約27cm	
D社	筒型・円形	⑪ ポリプロピレン	1.4m	φ12cm	1本
		⑫ グラスファイバー			



試験地の様子(令和2年9月時点)

### 3. 期待される効果

ツリーシェルターによるシカ被害の防止効果は高く、また苗木の枯損もほぼ見られなかったため、現地での普及が期待される。

### 4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター林業研究部 森林チーム  
〒877-1363 大分県日田市大字有田字佐寺原35  
電話 0973-23-2146